



2025 年 3 月 25 日

各 位

会社名： フ ク ビ 化 学 工 業 株 式 会 社
代表者名： 代 表 取 締 役 社 長 森 克 則
(コード番号：7871 東証スタンダード・名証メイン)
問合せ先： 広 報 ・ I R 推 進 室 長 柏 直 樹
(TEL：0776-38-8415)

「企業価値向上 2030～資本コストや株価を意識した経営の実現に向けて～」

に関するお知らせ

当社は、2023 年度からスタートした第 7 次中期経営計画を深化させ、成長戦略と財務戦略を主軸に持続的な企業価値向上を目指すべく、「資本コストや株価を意識した経営の実現に向けた対応」について現状を分析・評価し、改善に向けた取り組み方針として「企業価値向上 2030～資本コストや株価を意識した経営の実現に向けて～」を策定しましたので、お知らせいたします。

詳細については、別紙をご参照ください。

以上

企業価値向上2030

～資本コストや株価を意識した経営の実現に向けて～

フクビ化学工業株式会社
2025年3月

企業価値向上2030～資本コストや株価を意識した経営の実現に向けて～

成長戦略と財務戦略を両輪で進め、

「FY27（中計最終年度）：ROE6%以上」「FY30：ROE 8%以上」の実現を目指す。

2023

2025

2027

2030

第7次中期経営計画（2023-2027）

企業価値向上2030

技術^{おしだ}を押出し、未来へ **ワクワク**

【KPI】

- ・ ROIC：5.9%、ROE：6.0%以上
- ・ 売上高：450億円、営業利益28億円

【基本戦略】

①循環型ビジネス拡大

②強靱な収益基盤構築

③成長を後押しする組織づくり

第7次中期経営計画を深化させ、成長戦略と財務戦略を
主軸に持続的な企業価値向上を目指す

成長戦略

新たな事業領域
成長への投資
R&D 他

×

財務戦略

資本収益性向上
最適な
事業ポートフォリオ
株主還元 他

=

2030年成長イメージ

売上高 **500**億円

営業利益 **35**億円

ROIC **7**%以上

ROE **8**%以上

目次

1. 現状分析

2. 今後の方針と主な施策

3. 具体的な取り組み

ROE向上への取り組み

PER向上への取り組み

株主還元方針

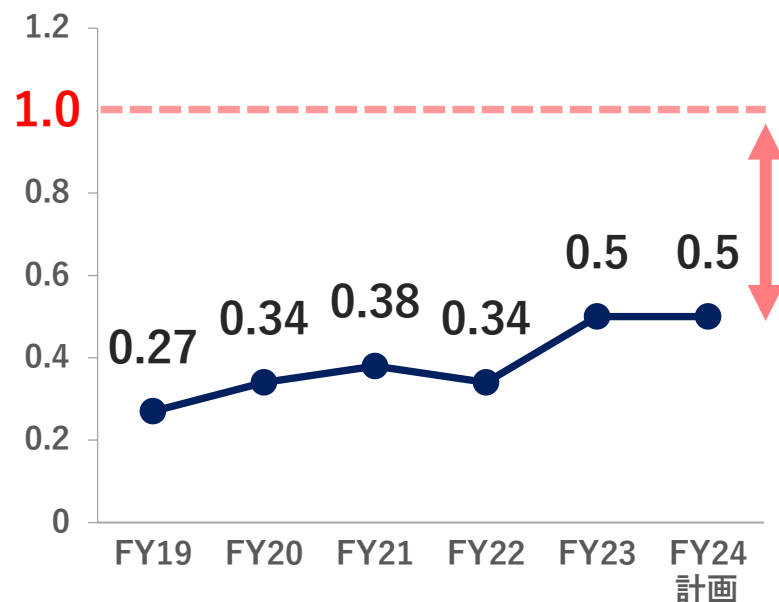
キャピタルアロケーション

政策保有株式の見直し

現状分析（連結）

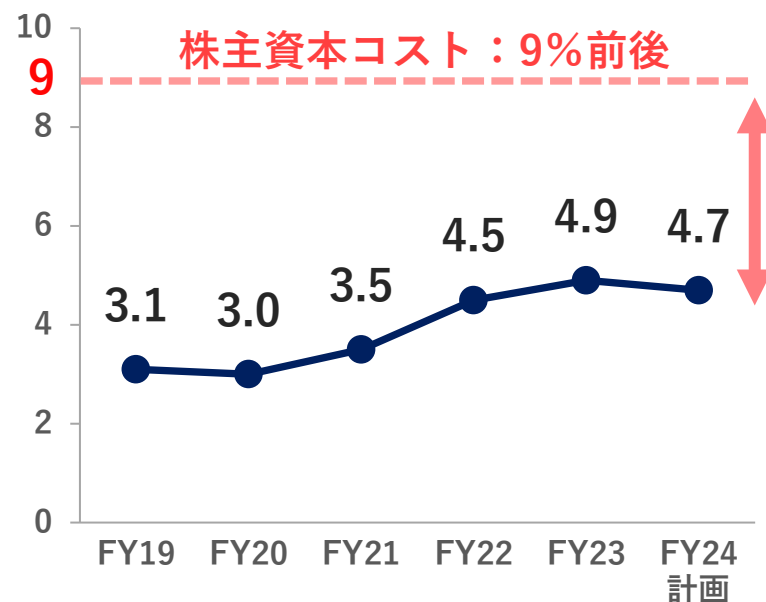
PBRは1.0倍割れ、ROEは株主資本コストを下回る水準で推移しており、両指標ともに改善が必要。

PBR（倍）の推移



- 第7次中期経営計画では、ESG戦略を中核に据え定量目標も開示。最近では、投資家との対話等IRへの取組にも注力。
- しかしながら、数値の改善は僅かであり、市場の評価を得ているとは言い難い。

ROE（％）の推移



- 近年、採算を意識した活動（採算性を踏まえた方針の明確化）を展開し、利益率が改善推移。
- 政策保有株式は一定数まで削減し、継続的に見直しを進める。CCCの更なる効率化が必要。

※CCC：キャッシュコンバージョンサイクル

資本コストの考え方

CAPM（資本資産価格モデル）

$$\begin{array}{ccccc} \text{リスク} & & & & \text{市場リスク} \\ \text{フリーレート} & + & \beta & \times & \text{プレミアム} \\ (0.75) & & (0.59) & & (6.06) \\ & & & = & \text{株主資本} \\ & & & & \text{コスト} \\ & & & & (4.3) \end{array}$$

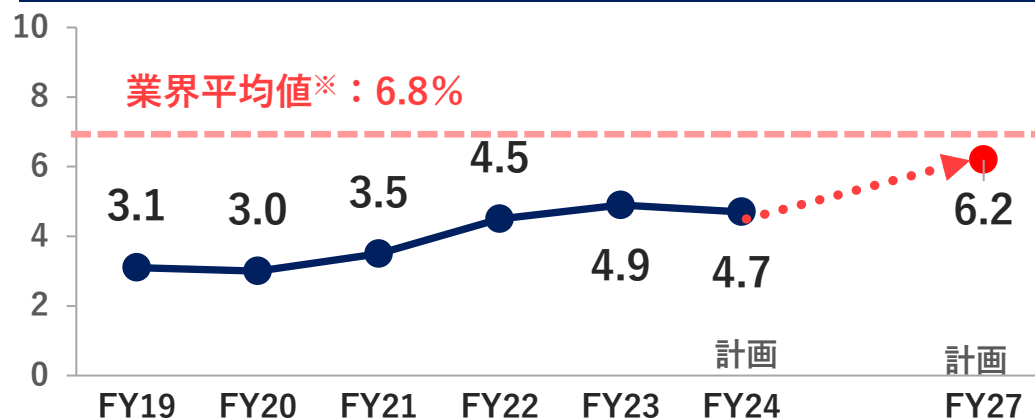
- CAPMで算出した基礎数値4.3%に事業要因、財務要因、市場要因の修正を加味すると9%前後と認識。

- 修正CAPMの資本コストを市場期待のコストとして捉えた上で、エクイティ・スプレッド改善に向けた方針と各方針に基づく選択肢を明確にして取り組む。

ROEの分析（連結）

収益性、財務レバレッジでセクター平均を下回っている。総資産回転率については、固定資産の償却が先行していることもあり、業界平均値を上回る形に。財務レバレッジは活用の余地あり。

ROE（％）の推移

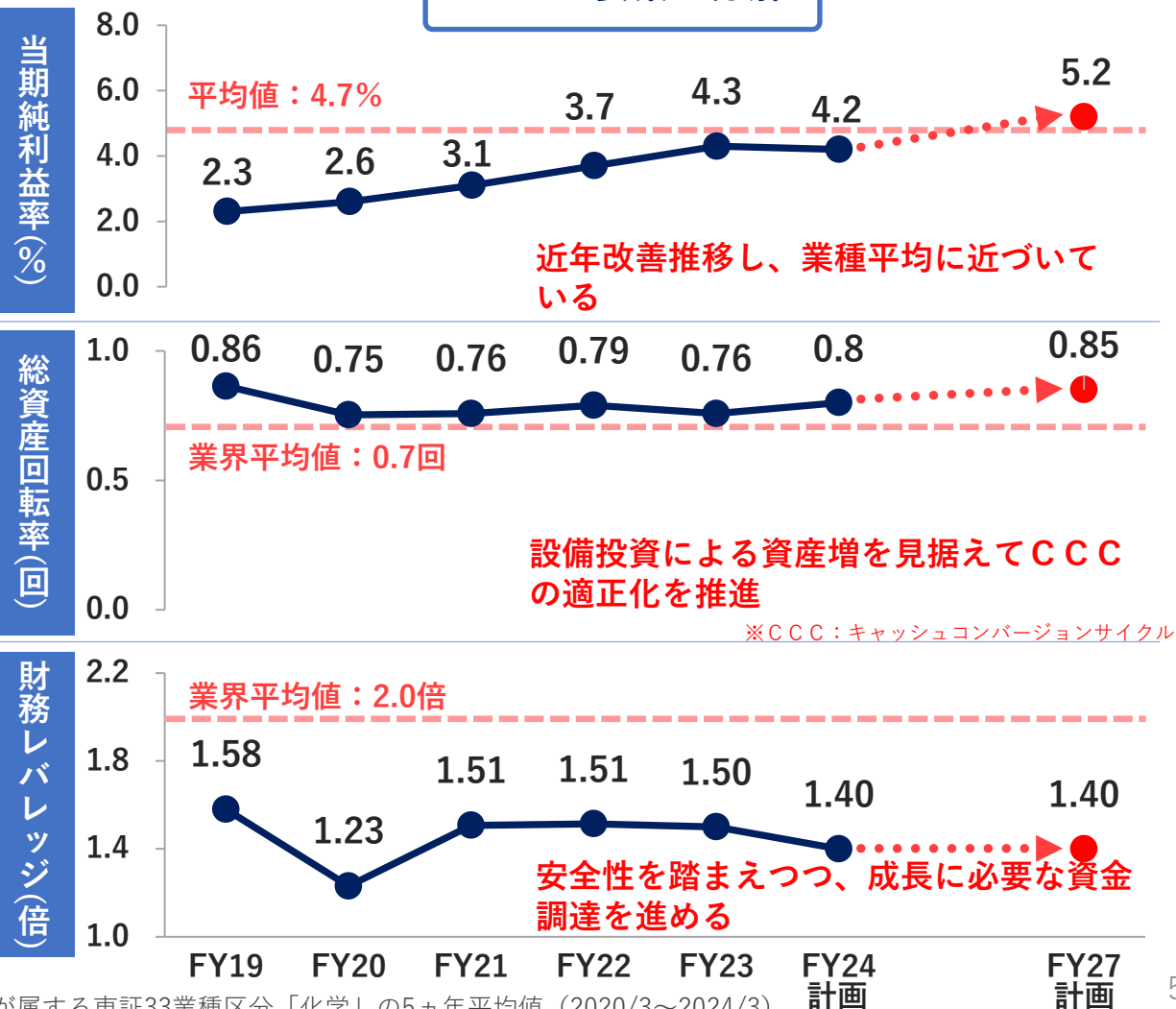


	FY24計画	FY27計画	FY24比
ROE	4.7	6.2	1.5
当期純利益率	4.20	5.20	1.00
総資産回転率	0.80	0.85	0.05
財務レバレッジ	1.40	1.40	0.00

FY24⇒FY27の変化

□収益⇒成長構想より
売上高 +42億円、当期純利益 +6億円
□資産増減 (+1.9億円)
⇒CCC適正化と設備投資
売上債権±0円 0.4カ月相当短縮
棚卸資産±0円 0.2カ月相当短縮
固定資産+17億円
取得90億円、売却・償却73億円
□負債・自己資本増減 (+1.9億円)
⇒CCC適正化と負債活用、配当還元
買掛債務+9億円 サイト変わらず
借入+50億円
自己資本増減+25億円
剰余金+58億円
配当累計23億円
自己株取得累計9億円

ROEを3要素に分解



目次

1. 現状分析

2. 今後の方針と主な施策

3. 具体的な取り組み

ROE向上への取り組み

PER向上への取り組み

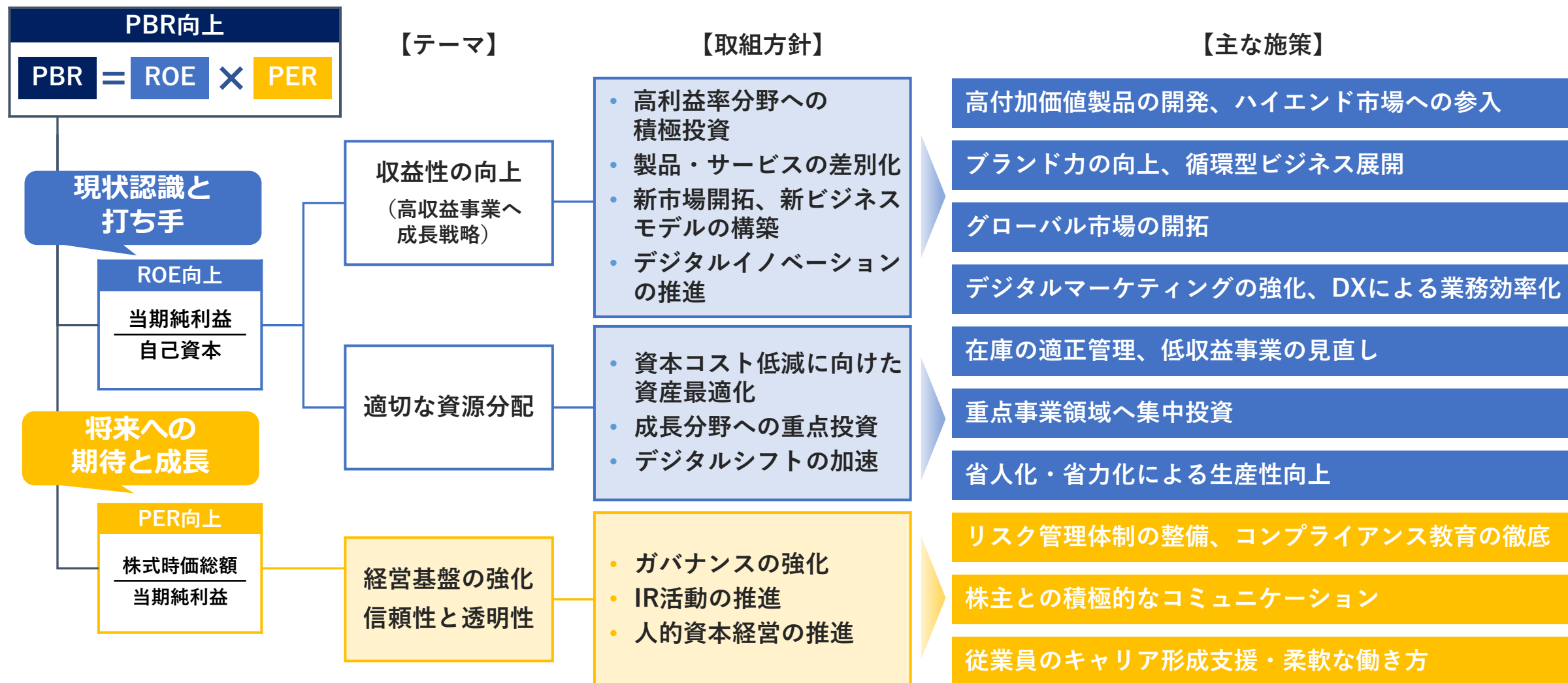
株主還元方針

キャピタルアロケーション

政策保有株式の見直し

今後の方針と主な施策

「現状」の改善と「将来」の成長期待の両面が課題であり、各々の取組方針に基づき施策を展開していく。



目次

1. 現状分析
2. 今後の方針と主な施策
3. 具体的な取り組み
 - ROE向上への取り組み
 - PER向上への取り組み
 - 株主還元方針
 - キャピタルアロケーション
 - 政策保有株式の見直し

ROE向上への取り組み_成長構想

第7次中期経営計画をベースにFY2030までの成長構想を策定。

成長領域の拡大・収益力強化と併せて不採算部門等の縮小を実現しROE向上につなげる。

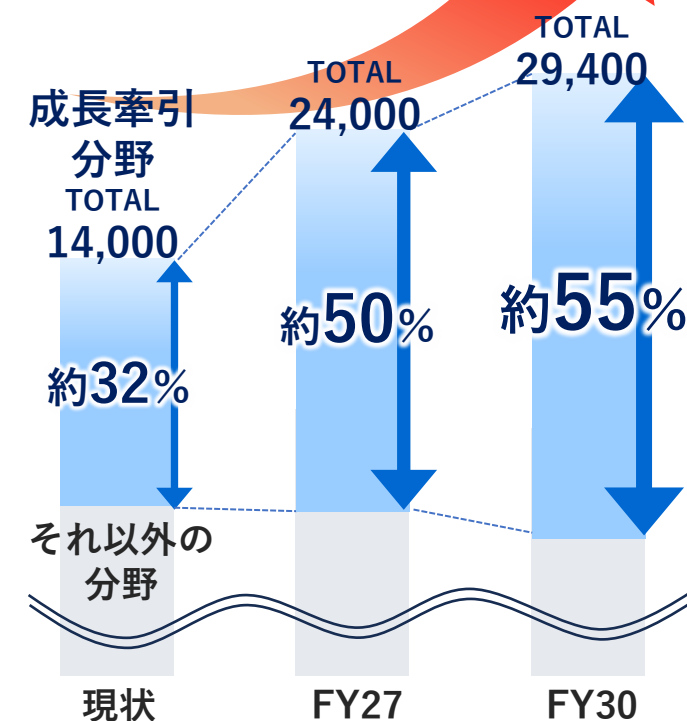
事業ポートフォリオマネジメント

重点事業領域	成長率引分野	開示セグメント				
		建材	CSE	機密	グローバル	その他
新たな住まい オフィス＆ ファクトリー   	・ 高性能断熱建築物/新築	●	●			
	・ リフォーム/リノベーション	●	●			
	・ 非住宅建築物 (オフィス・工場・文教施設など)	●				●
	・ リサイクル	●	●			
	・ 建築資材・OEM 海外	●	●		●	
	・ レンズ・カバー・機器等 国内・海外			●		●
モビリティ  	・ 車載（内装・ディスプレイ） 国内・海外		●	●	●	
インフラ 	・ 海底ケーブル 土木/まちづくり		●			●

成長イメージ

成長率引分野の売上高

約2倍へ！



※ 棒グラフ軸は売上高。セグメント間取引消去による調整額は考慮せず。

※ 単位：百万円

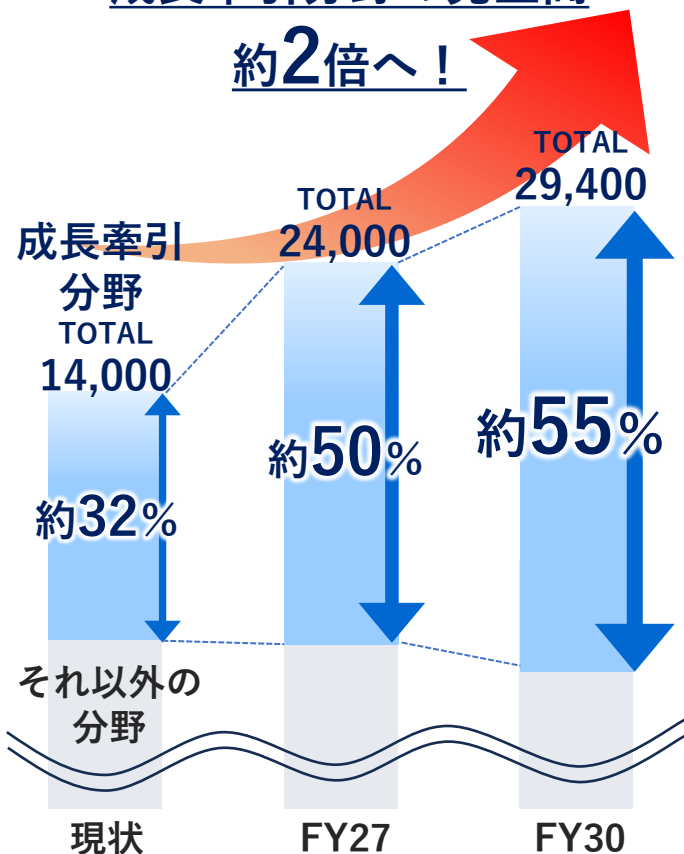
ROE向上への取り組み_成長構想

次期中期経営計画を見据えて「目指したい重点事業領域」を既存セグメントに紐づけて成長軌道に乗せる。

成長イメージ

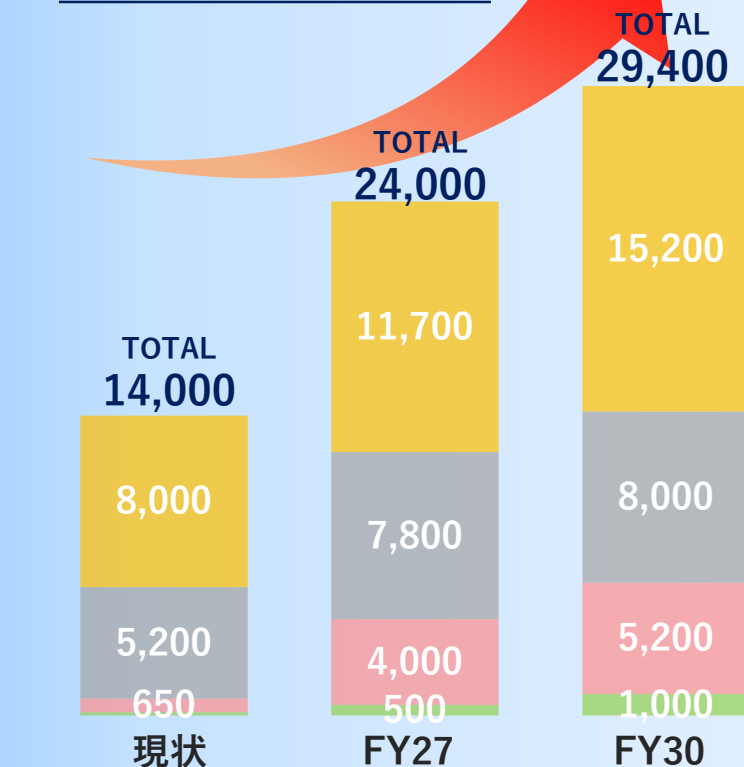
成長率引分野の売上高

約2倍へ！



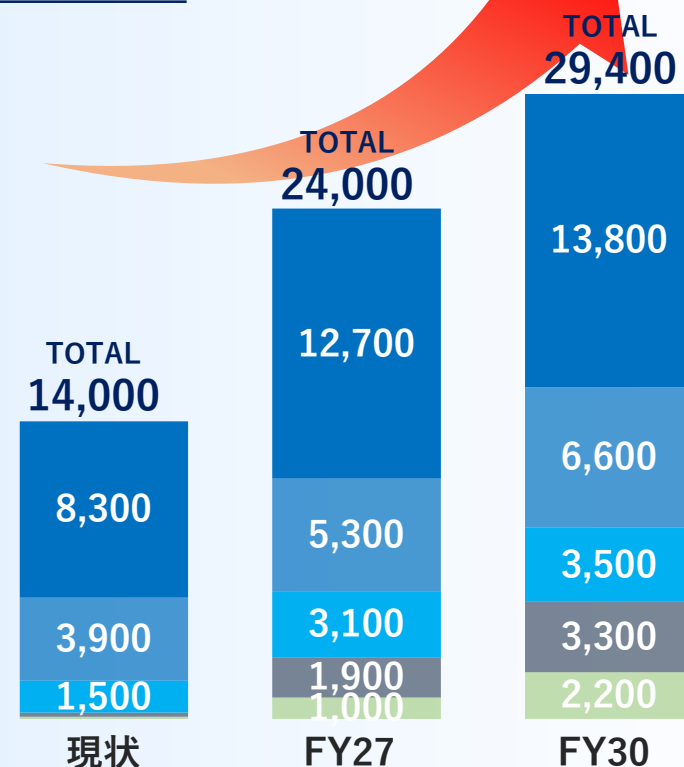
重点事業領域別

重点事業領域における
成長率引分野を明確化し、
領域拡大を目指す！



既存セグメント別

各事業本部における
成長率引分野をキャッチアップし
伸ばす！



※ 棒グラフ軸は売上高。セグメント間取引消去による調整額は考慮せず。

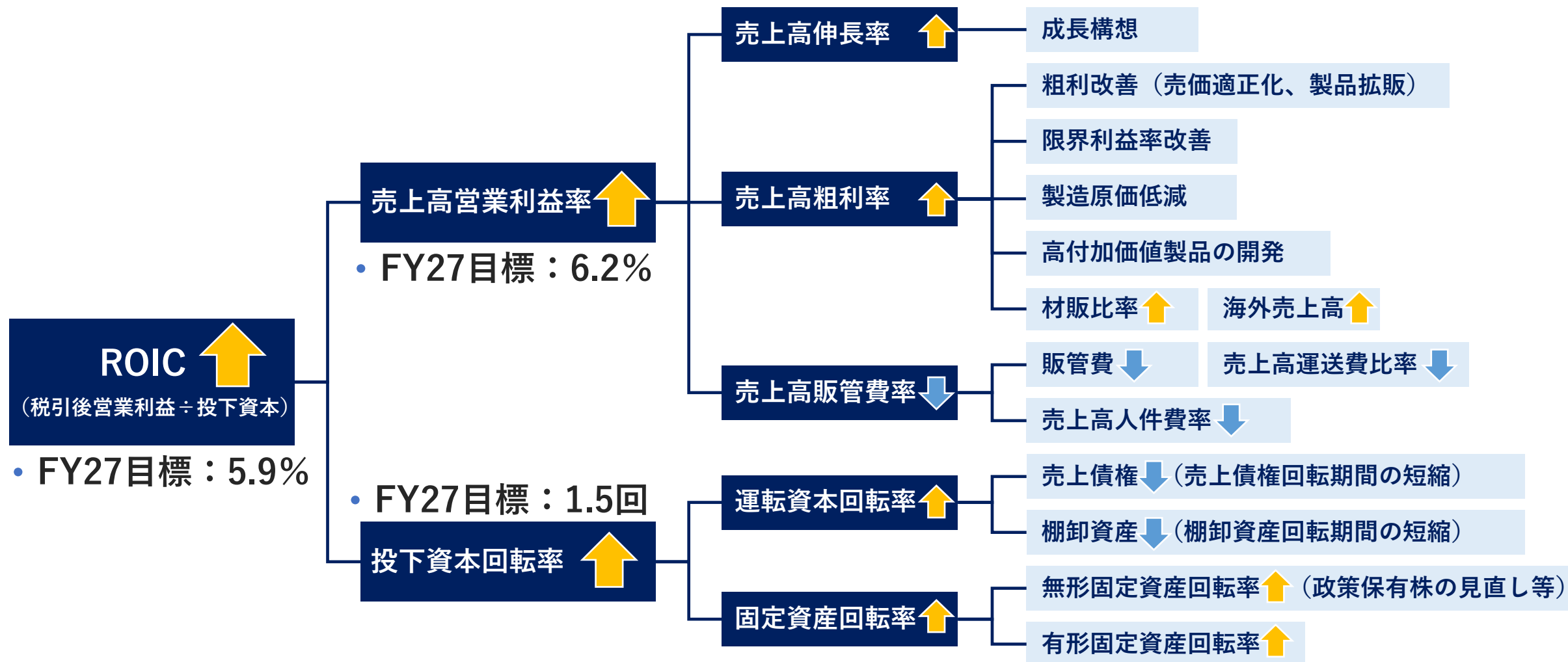
※ 単位：百万円

■ 新たな住まい ■ オフィス&ファクトリー ■ モビリティ ■ インフラ

■ 建材事業 ■ グローバル事業 ■ 精密事業
■ CSE事業 ■ その他の事業

ROE向上への取り組み_全社展開

全社課題を現場レベルの指標に落とし込むことで意識付けを図り、各担当者の取り組みとして積み上げていく。



PER向上への取り組み_ガバナンス強化

経営戦略上の課題に照らして必要とされる「実効性あるガバナンス体制」を進める。

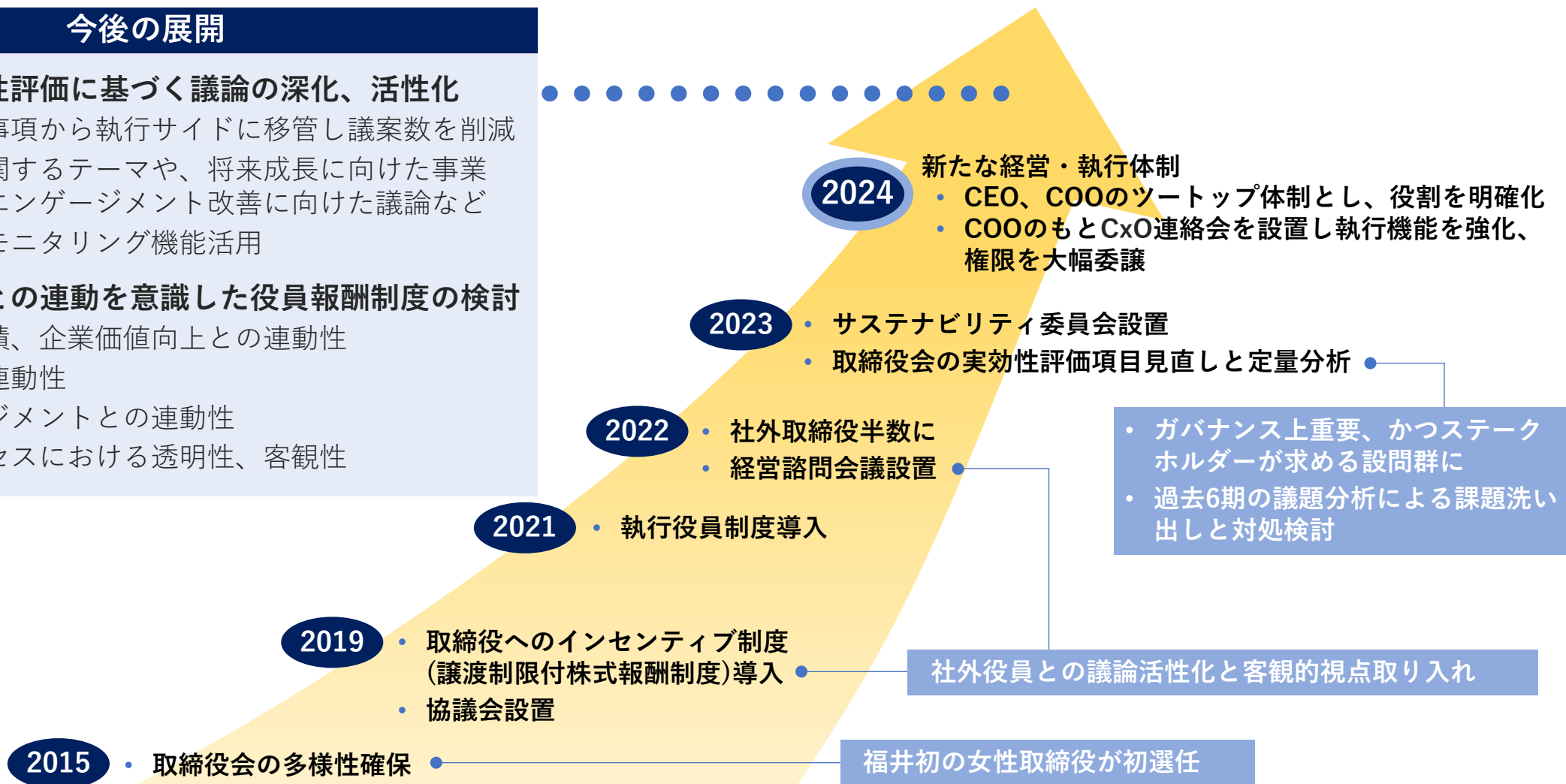
今後の展開

■ 取締役会実効性評価に基づく議論の深化、活性化

- ・ 取締役会付議事項から執行サイドに移管し議案数を削減
- ・ 中期経営計画関するテーマや、将来成長に向けた事業戦略、従業員エンゲージメント改善に向けた議論など
- ・ 社外取締役のモニタリング機能活用

■ 企業価値向上との連動を意識した役員報酬制度の検討

- ・ 中長期的な業績、企業価値向上との連動性
- ・ 株主価値との連動性
- ・ 従業員エンゲージメントとの連動性
- ・ 報酬決定プロセスにおける透明性、客観性



PER向上への取り組み_IR活動の強化

投資家との対話を通じてフクビグループの成長戦略を理解頂き、信頼関係を構築する。

実行内容【FY23・FY24】

FY23～

- 個人投資家向けIR説明会（東京/大阪/名古屋）
- 株主向け工場見学会
- IR説明会・工場見学会アンケート結果のフィードバック
- 福井駅デジタルサイネージ広告

FY24～

- 会社案内、冊子・動画・説明資料の刷新
- 新CM公開
- 個人投資家向け会社説明会トップメッセージ発信

今後の展開

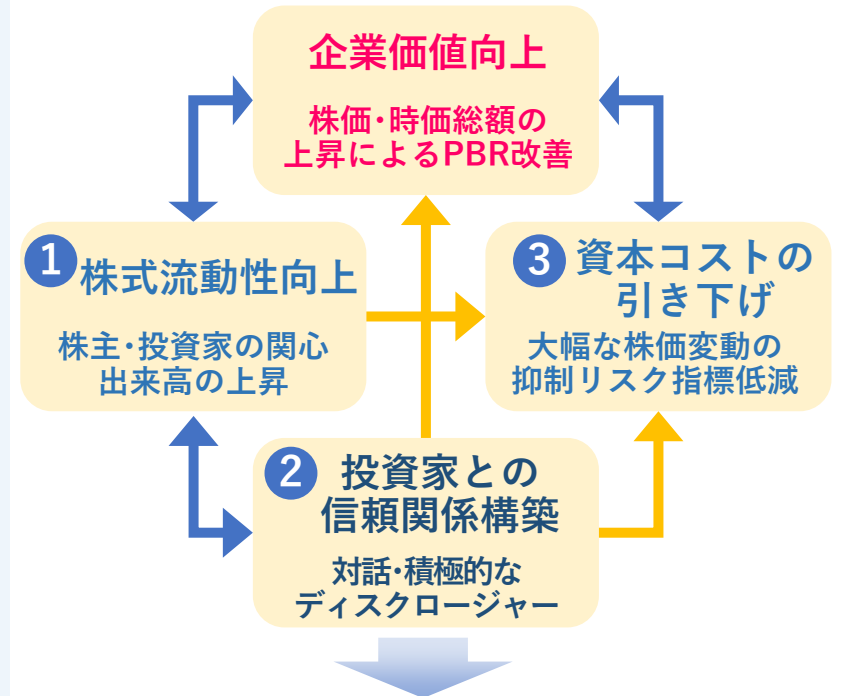
⇒FY30

認知度向上・新規株主の獲得

- 認知度を高めるための発信や、企業広告の活用 ⇒ ①
- 個人投資家向けIR説明会でトップメッセージの継続発信 [8月・1月] ⇒ ① ②
- 株主向け工場見学会を毎年開催 [3月] ⇒ ① ②
- 潜在株主向けアンケートの実施と活用 [1Q] ⇒ ① ②

投資家との対話・関係構築

- 機関投資家との対話 [2・4Q] ⇒ ②
- IRを通して得た投資家の声を全社戦略に反映させるべく経営層に適宜フィードバック ⇒ ②
- 開示情報にて成長戦略の進捗を随時公開 ⇒ ② ③



施策の実行に加え、「投資家との信頼関係構築」を図ることが「将来成長」への「期待」と「信用」につながり、更なる企業価値向上を後押し

$$\begin{array}{|c|} \hline \text{施策} \\ \hline \text{実行} \\ \hline \end{array} + \begin{array}{|c|} \hline \text{投資家との} \\ \hline \text{信頼関係構築} \\ \hline \end{array} = \begin{array}{|c|} \hline \text{企業価値の} \\ \hline \text{更なる向上} \\ \hline \end{array}$$

PER向上への取り組み_人的資本経営の推進

FY24経営戦略本部から人財本部を独立。経営戦略と連動したフクビグループの人的資本経営を加速する。

実行内容【単体、FY23・24】

人財獲得

- ・アルムナイ/タレントプール採用
- ・海外インターンシップ

健康経営・安心安全

- ・健康経営優良法人2024：認定
- ・EAP：ラインケアによる面談推進
- ・健康増進ウォーキングラリー：117名参加

教育・研修の充実

- ・管理職教育（ラインケア、傾聴）
- ・職能別・階層別研修
- ・女性特有の健康課題への取組推進

ダイバーシティ

- ・新卒採用女性比率：4名（36%）
- ・中途採用女性比率：9名（41%）
- ・女性管理職比率：15名（6.6%）

各種制度の充実

- ・従業員持株会RS：80%超
- ・男性育休推奨：79%
- ・管理職制度見直し：女性6名登用

専門スキルの習得

- ・Eラーニング研修：受講率99%
（DX、情報セキュリティ、コンプライアンス）
- ・キャリアパス制度：昇格資格取得者48名

今後の展開（グループ）

⇒FY30

持続的成長へ！

従業員エンゲージメントの分析及び
タレントマネジメントによって、適財適所を実現しながら
「ありたい姿」への持続的成長に繋げる

エンゲージメントスコアUP！

2030年度 目標

70p

2022年度比 + 9p

タレントマネジメント推進！

人財データの可視化
& 能力開発

知識・スキル
35項目

× 行動評価
4要素

経営戦略

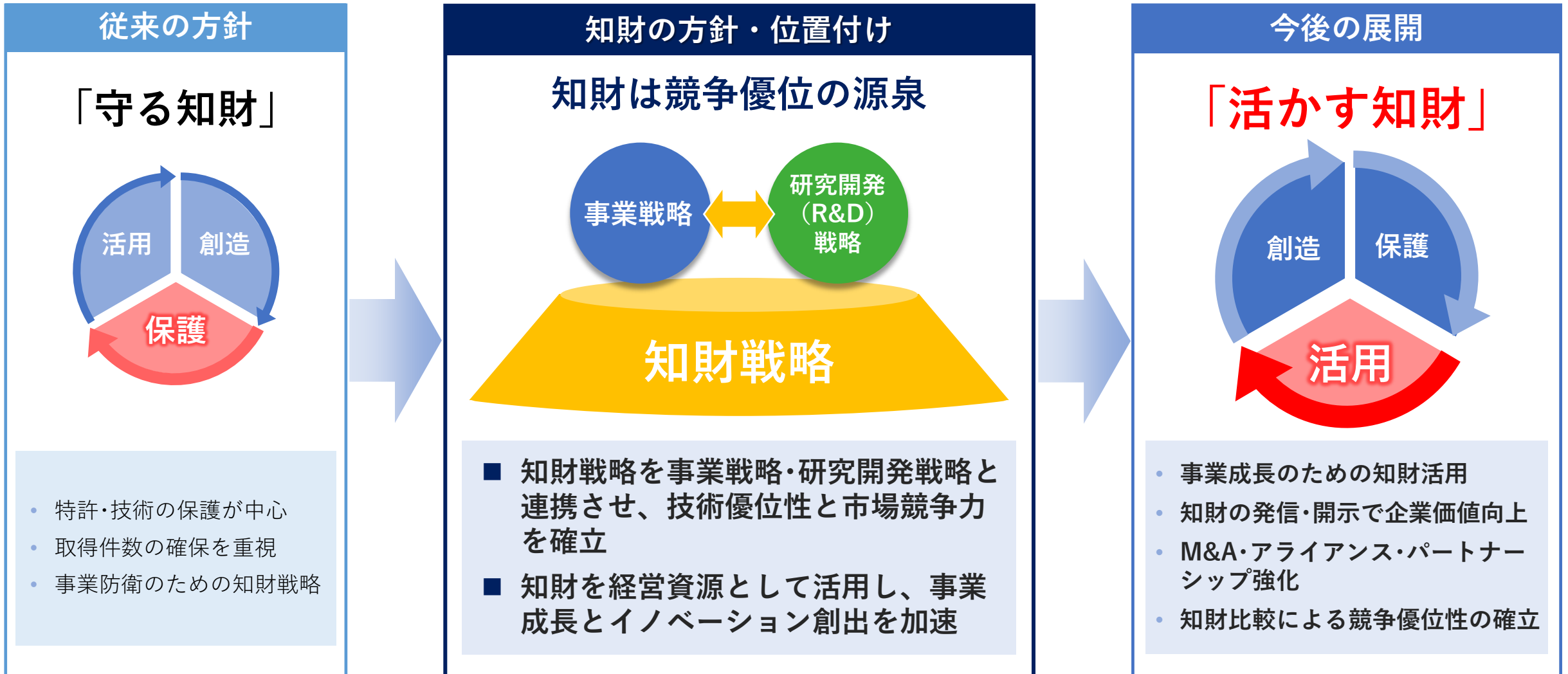
連動

人財戦略

人がいてフクビがあり、人が成長してフクビが成長する

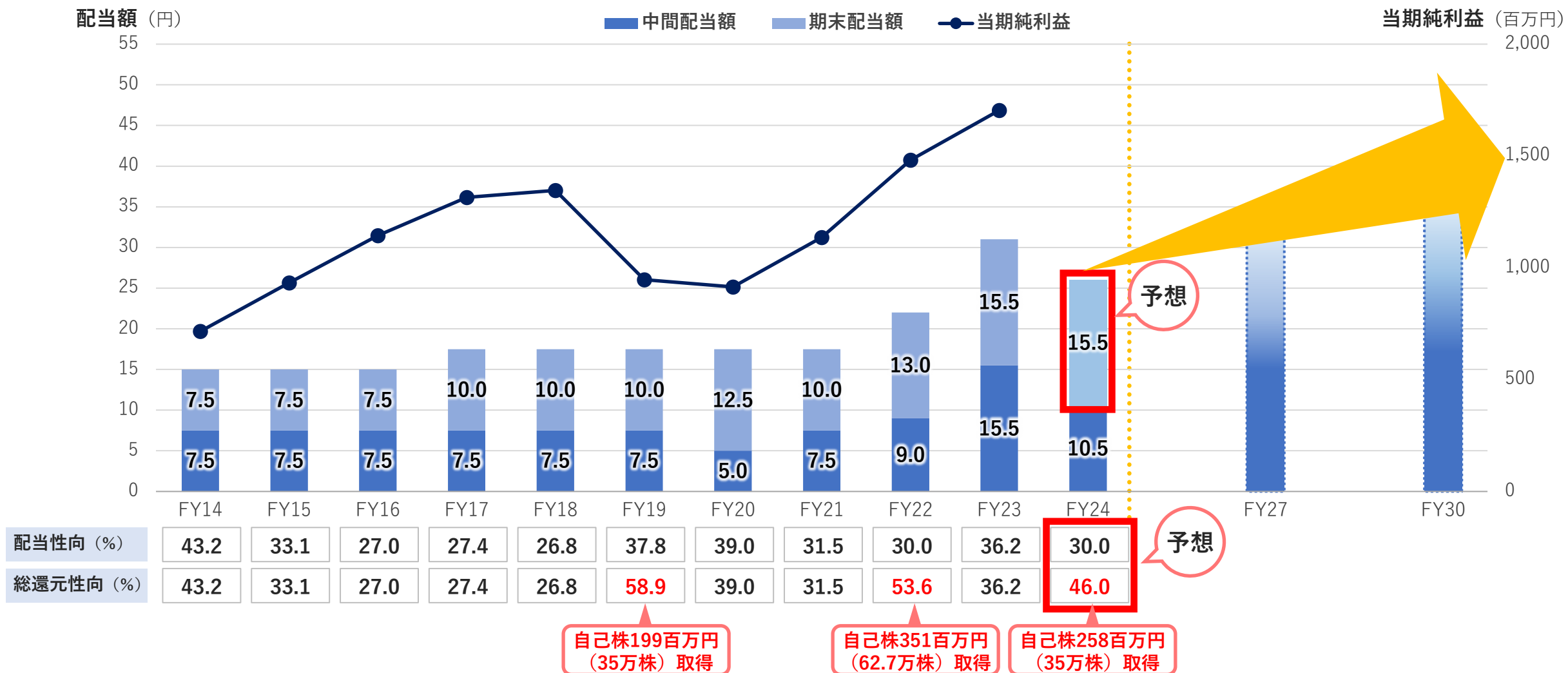
PER向上への取り組み_知的財産戦略

フクビグループの知的財産を守るだけではなく、培った財産を活用して価値向上につなげる。



株主還元方針（連結）

株主還元を強化すべく、配当基本方針の見直しを検討。機動的な還元は適時実施。



キャピタルアロケーション（連結）

資本効率を意識したバランスシート改革に取り組む。成長領域への投資と株主還元を強化していく。

FY30までの成長を見据えて
中計5ヶ年のキャピタルアロケーションを見直し、再策定

FY23～FY27 中計5ヶ年累計

キャッシュイン

キャッシュアウト

営業CF
132億円

総投資
137億円

内、成長投資 105億円
維持更新 32億円

現預金、資産流動化
39億円

株主還元 他
34億円

資本(キャッシュ)

負債活用 50億円

株式売却 20億円

営業CF
(FY23～FY27 5ヶ年累計)
132億円

現預金残高
(23/3期末)
121億円

アロケーション戦略

成長投資
105億円

更新投資 32億円

株主還元 45億円

借入返済等 26億円

現預金
115億円

- 新たな住まい分野：45億円
- モビリティ分野：5億円
- M&A：10億円
- R&D、人的資本、DX等：45億円

- 配当：35億円
- 自己株式取得：10億円

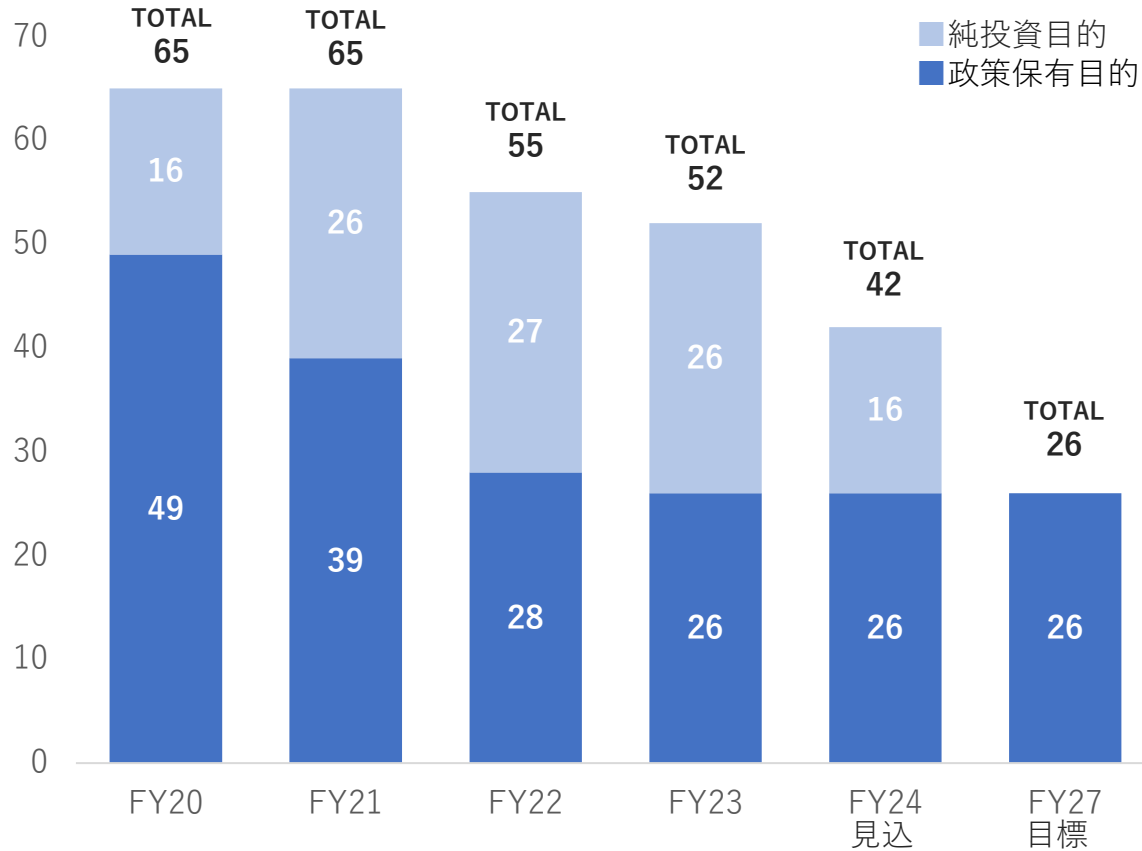
資本効率改善によるキャッシュ増
⇒成長投資に活用

- CCCの適正化：15億円
(運転資金0.5ヶ月短縮)
- 政策保有株式の縮減：20億円

政策保有株式の見直し

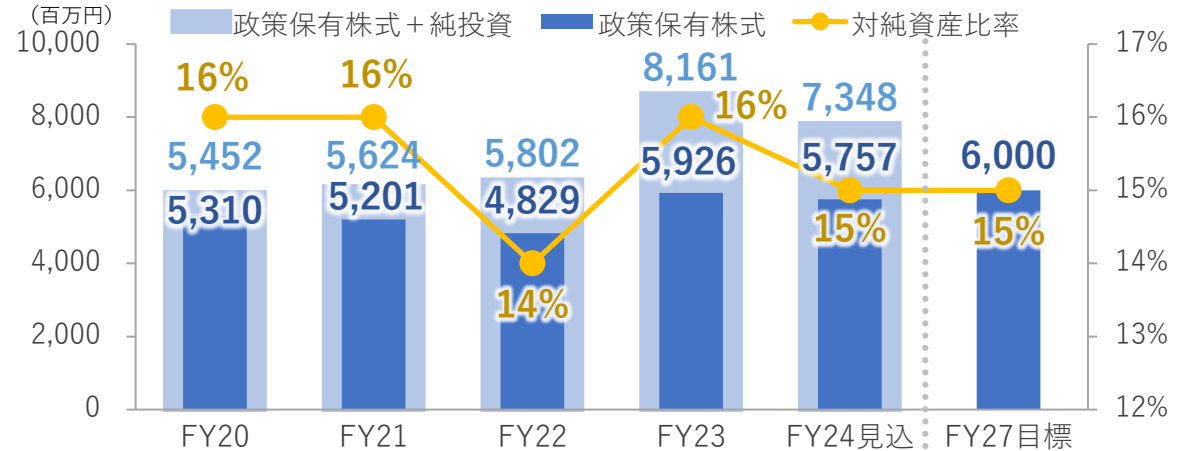
政策保有株式は一定数まで削減し、対純資産比15%前後の水準になったが、見直しは継続。
併せて、純投資目的銘柄株式についてパフォーマンスを見ながら売却を進める。

保有有価証券銘柄数（政策保有＋純投資）推移



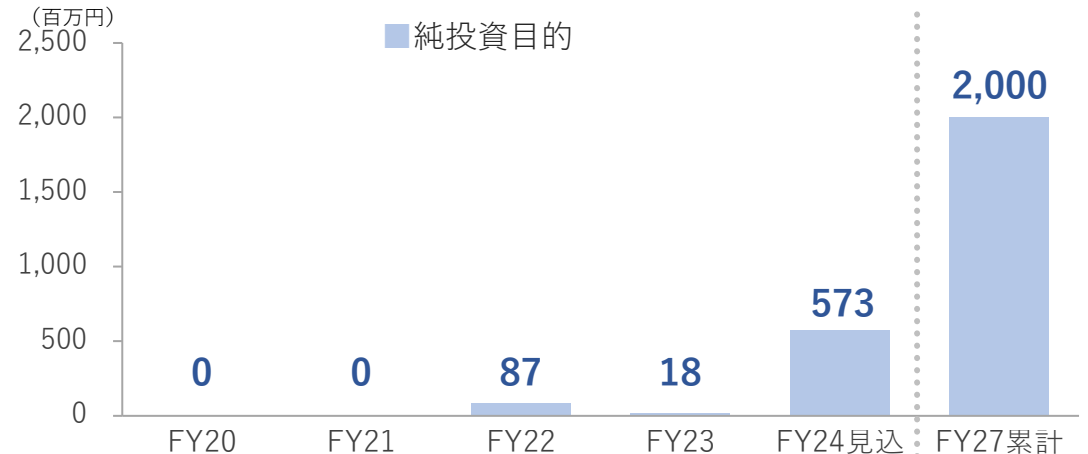
※ 上記の保有有価証券銘柄数・総額・売却額の推移は非上場株式を除く。
政策保有株式は、みなし保有株式を含む。

総額（政策保有＋純投資）推移



※FY20～FY23は期末における時価。FY24は2024年12月末における時価+4Q見込値

保有有価証券 売却額推移



全社展開とモニタリング体制

既設の中期経営計画モニタリング機能を活用する。

モニタリングのメインテーマである定量進捗の把握とリカバリー策検討に企業価値向上の視点を取り入れる。

全社方針 社内展開

2月

- ・ 経営会議 説明会開催
- ・ 掲示板・社内報掲載

3月

- ・ 各本部方針へ落とし込み
全社会議にて共有
- ・ 一般社員 説明会開催

フクビ化学の企業価値向上

中期経営計画

10の中計モニタリンググループを活用

建材事業

CSE事業

精密事業

事業開発

グローバル事業

資源循環

原価改善

物流改善

業務効率化

人財開発

技術をおしだし、未来へワクワク

注意事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、当社としてその実現を約束する趣旨のものではありません。実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性がありますことをご了承ください。